信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	**「ドイツ環境ゼミ」:環境マインドをもったグローバル人材育成のためのドイツ視察研修プログラム**		
学部・研究科名	全学教育機構		
実施期間	2016年2月13日～3月7日		
研修先(国・都市・施設名)	ドイツ(レーゲンスブルク・ハノーファー他)		
参加学生数 : 9名		知の森基金からの支援者 : 6名	
プログラム概要	2/13:羽田 ⇒ ミュンヘン 2/14:ミュンヘン ⇒ レーゲンスブルク 2/15～2/26:語学研修(レーゲンスブルク、ホリツォンテ語学学校) 2/27～2/28:個人視察(個人のテーマに従って、ドイツ国内を視察旅行) 2/29～3/2:団体視察(ハノーファーにおいて、環境関連施設の視察) 3/3～3/4:個人視察(個人のテーマに従って、ドイツ国内を視察旅行) 3/5:ドイツ各地 ⇒ フランクフルト 3/6-7:フランクフルト ⇒ 羽田		

実施状況・成果

1. 語学研修(2週間の語学コース)
レーゲンスブルクにあるホリツォンテ語学学校にて、2週間のスタンダード・コースに参加。各自の語学能力に従ったクラスに分かれ、実践的な語学力の向上につとめる。期間中は、ホームステイか学校の寮に滞在した。
空き時間や週末は、各自のテーマに従って、レーゲンスブルク市内・近郊や、他の都市に足を延ばし、部分的には教員が引率して環境関連施設や博物館などを視察・見学した。

2. 個人研修
各自のテーマに従って出発前に(指導を受けつつ)作成した計画に従い、ドイツ国内を回って視察を行った。

3. 団体研修(ハノーファー市内)
本学の卒業生でもあり、ドイツ在住で主に環境をテーマとしたジャーナリストとして活動している田口理穂氏と、ハノーファー・ライプニッツ大学のフランツ・レンツ教授のサポートによって、ハノーファー市内の各所を視察した。訪問したのは、次の各所:
2/29:EEW Energy from Waste Hannover(ごみ処理場、ごみ焼却炉)、ライプニッツ・ハノーファー大学(レンツ教授の講義を含む)、学生との交流会
3/1:学校生物センター(授業を受講)、Bioladen Alnatura(オーガニックショップ)
3/2:Windwärts(風力発電など再生可能エネルギー分野のコーディネート企業)、ハノーファー市気候保護局

なお参加学生は、6月末にドイツ語技能検定試験を受験、7月に学内で開催される公開報告会にて視察結果を報告し、その後最終レポートを提出し、成績の評価を受ける。

学生の声①－人文学部　学生

ドイツという日本とはまったく異なる国に行き，そこで三週間，語学と環境について学べたのは，とても有意義な経験であった。もともと，ドイツ語を学ぶのは好きであったが，実際に現地で語学学校に通ったり，ホームステイ先の家族と会話をするうちにさらにドイツ語を学ぶ楽しさを味わえた。また，ホームステイをしたことで，ドイツ人の生活や文化をより身近に感じることができ，とても良い経験になった。環境視察では，博物館や風力発電の会社、ごみ処理場など様々な場所に行けた。その中でも，子供のための環境教育施設がとても印象に残っている。身近な生物や化学について子供たちが楽しく学べるような工夫がたくさんあり，環境と教育には切っても切り離せない重要なつながりがあるのだと感じた。限られた期間であったが，様々なことを学べて自らの視野を広げることができ，非常に充実した日々であった。

学生の声②－工学部　学生

旅行ではなく研修という形で海外に三週間、行くことができたのはとても良い経験になった。環境というテーマのもと、普通の旅行では行くことのないドイツの企業への訪問や、現地の環境を担当する市役所職員の話を聞けたり、ドイツの環境に対する意識を、ごみの分別などの目に見える部分ではないところからも知ることができた。また、研修期間中の生活では、学んだドイツ語を使い食事や買い物などをする機会が多くあった。そこで日本語ではない言語でコミュニケーションをとることの難しさと楽しさを実感できた。観光ツアーのように日程が事細かに決められているわけではなく、自分が調べたいことを調べるために自分から行動することが求められる授業で、自分のためになる良い機会になった。

EEW Energy from Waste Hannover
(ゴミ処理場、ごみ焼却炉)にて

ライプニッツ・ハノーファー大学にて